

失敗しないための、塗り壁の基礎知識

「塗り壁」と言っても種類が多く、その違いが良く分からないはず。用途や性能の基本的な情報を知っているだけで家創りがもっと楽しくなります。

漆喰： 消石灰(水酸化カルシウム)を主原料にスサや海草のりを混ぜて作られる日本古来の左官材料。風雨に弱い土壁に比べて防水性・不燃性があるため、城郭・寺社・土蔵などに外部保護材料として用いられてきた。近年、化学物質の吸着機能が注目され内部仕上げ材としても使用されている。古くは現地(施工現場)で材料を混ぜて作られていた(本漆喰)が、現在は現地での準備と施工の簡略化を目的として各漆喰メーカーが製造している既調合漆喰が多く使用されている。本来、本漆喰は100%天然由来の原料からなるが、現在では機能強化の為、樹脂や化学繊維を配合した商品もある。また、フランス・スイス・スペインなどで使われてきた、成分的に漆喰に類似した海外製の材料も多数販売されている。

珪藻土： 海や湖に生息していた植物性プランクトンの死骸が堆積してできた土層から採取されたもの。保湿性・断熱性が高く、七輪の原料として知られている。珪藻土はその多孔質構造から調湿・脱臭・化学物質の吸着性能に優れ、カビや結露を抑制する効果を期待して、漆喰同様に内装の仕上げ材として注目されている。珪藻土は日本各地で産出されるが特に北海道稚内産の珪藻頁岩はその機能の高さが有名である。

シラス壁： 火山からの噴出物(シラス)を主原料とした左官材料。白洲壁とも表記する。珪藻土壁と並び、高い消臭・調湿機能を発揮することが知られている。日本では鹿児島から宮崎県南部にかけて産出されるシラスから生産される。

樹脂系壁： 自然素材の弱点とされてきた、ひび割れや汚れの付着を防止するためにアクリルやシリコンなどの樹脂を配合した左官材料の総称。安定した性能に加え、意匠性の高さ(色数とパターンが豊富)から内外装共に多用されている。また一般的に接着力が強く、既調合品のため使用の際に水で攪拌する必要も無いことからDIYリフォームにも適している。ただし、調湿効果などの機能はあまり期待できない。

2016年10月発行 | CKPP-10

CK CHUO KENZAI CENTER
natural lifestyle creator / since 1995

株式会社 中央建材センター

【本社】〒751-0834 山口県下関市山の田東町10-9
TEL:083-255-7770 FAX:083-255-8880

【東京営業所】〒340-0048 埼玉県草加市原町2-3-11-25
TEL:048-942-6861 FAX:048-611-7736

TEL 083-255-7770

家を建てる前に知っていて欲しい大切な情報

あなたの知らないカベの魅力



chapter 1 塗り壁は世界にあふれている

chapter 2 家族の健康と笑顔のために

chapter 3 あなただけの家を創ろう！

知ってましたか？
家の70%は壁なんです。

chapter 1 塗り壁は世界にあふれている ここにも、あそこにも『塗り壁』



あなたは『塗り壁の家』を見たことがありますか？

「塗り壁」とは土・砂・石灰などの様々な素材を左官職人が手作業で仕上げるカベの総称で、日本では漆喰や土壁といった名称で古くから広く建築材料として使われています。

塗り壁の歴史は古く、古代メソポタミア、エジプト、ギリシャ・ローマ文明や万里の長城などの世界的な遺産にも使用され今もなお長年の風雪に耐えています。勿論、日本でも神社仏閣、城郭建築、土蔵建築や酒蔵に塗り壁は無くてはならない素材として多用されてきました。

住宅建築においてもギリシャ・エーゲ海に浮かぶサントリーニ島の街並み、南仏プロヴァンスやスペイン各地に点在する古民家など地中海沿岸地方を中心に、世界中で現在でも最も一般的な仕上げ材として使われており、旅行先や書籍などで目にされた方も多いのではないのでしょうか。日本でも茶室・旅館・料亭などの和風建築は勿論、一般住宅でもこだわりのある方に採用されています。

日本で『塗り壁の家』が少なくなった理由。

このように塗り壁は世界的に最も一般的で当たり前のように使われている素材なのですが、残念ながら日本では新築・リフォームを問わず塗り壁を採用される方は全体の10%ほどというのが現実です。

古来、日本の住宅はその土地の気候風土で育まれた木材と土壁でつくられてきました。しかし戦後、短期間で住宅不足の解消を最優先としたことや、資材不足からコンクリートをはじめとした工業製品やビニール、プラスチックなどの石油化学製品がそれらにとって代わりました。

そして現在でも工期の短縮、施工の容易さ、価格の安さ、規格の標準化などの理由から、外壁では「サイディング」、内装では「ビニールクロス」がほぼ無意識に、自動的に採用されているのが現実です。

更に住宅の産業化、工業化が長く続く中で塗り壁の物件数の減少と比例し、施工に無くてはならない左官職人の数も減り続けました。

結果的に職人の確保が難しくなり、施工費用も上昇し、塗り壁の採用を諦めてしまうという悪循環に陥っているのです。

見直されてきた『塗り壁の家』

しかし、このようなビニールクロスを始めとする石油化学製品に囲まれた住宅が一般化したことによると考えられるアトピー性皮膚炎や化学物質に対するアレルギー疾患などの健康被害が増え続け、無垢の木材と塗り壁を中心とした健康住宅・自然素材住宅を希望される方が徐々に増えてきました。

そして、それらの要望に応えるために従来の考え方を180度転換し、塗り壁の家に特化した家創りをする先進的な建築士や工務店が注目を浴びつつあります。

また、建材メーカーも漆喰などの古来の素材に新たな機能を加えた商品を開発すると同時に、海外からも様々な特徴を持った商品が紹介されています。今ではその機能やデザイン、風合いなどの要望に応じた世界中の塗り壁を自由に選ぶことが出来ます。更に最近ではネットショッピングで材料を購入し気軽にDIYリフォームを楽しまれる方も増えています。

このように徐々にではありますが、確実に『塗り壁の家』が見直されつつあり『塗り壁の家』を実現できる環境が整っているのです。

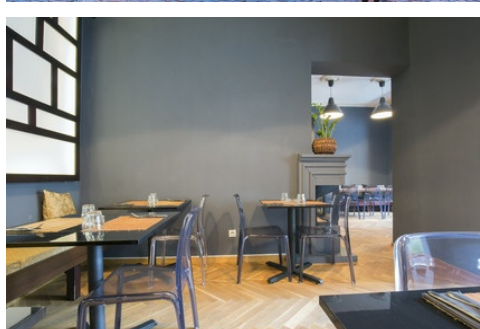
まるでカフェや旅館のような上質でくつろげる空間。

「塗り壁」には様々な優れた機能や特徴があります。実際にご利用頂いた方からのアンケートでは、採用の決め手になった最大のポイントは、他の工業製品では決して真似のできない「素材の質感」でした。

街角のお洒落なカフェや、たまに訪れる温泉旅館の一室で「なんだかゆったりとして落ち着く」という体験をされたことがあると思います。画一的なものではない、左官職人が手間隙かけて創り上げる空間。それこそが塗り壁にしかできないあなたの感性に訴えかける魅力なのではないのでしょうか。

家は雨風をしのぐだけの「箱」ではありません。幸せな家族を守る大切な「場」であり「空間」です。そんな大切な家創りを後悔しないためにも『塗り壁の家』のチカラと価値を知って頂きたいという思いを込めて本誌を作成しました。

本誌が皆様の家創りのお役に立てれば幸いです。





あるお客様の体験談 ～塗り壁の家で暮らして～

私が家を建てるにあたって主人と一番こだわったことは、「家族が健康で明るく楽しく過ごせること」でした。

そして、住宅展示場をまわったり、住宅雑誌などで知識を得るうちにたどり着いたのが「塗り壁」でした。特に子供が生まれたばかりだったので塗り壁材の健康機能については妥協したくありませんでした。

実際に塗り壁の家に住んでみて感じることは「以前のビニールクロスの家との空気の違い」です。今の家に慣れてしまうと普段はあまり感じる事が出来ないのですが、旅行などで家を数日空けて帰宅した際の「家の空気感」とでも言うようなものが澄んでいるように感じられます。これは友人が遊びに来た際にもよく言われることです。それも塗り壁に湿気や生活臭を吸収してくれるチカラがあるからだと思っています。

私も主人もアウトドアが趣味で、休日には子供を連れてキャンプによく行きます。非日常を体験しながら自然と触れ合う中でリラックスできるのですが、そんな環境を少しでも日々の暮らしに取り入れたいという想いも塗り壁を採用した理由の一つです。家の中に居ながらにして、「森の中のコテージで過ごすような自然との一体感」を感じることができるので大満足です。

M様/主婦 40代
家族:ご夫婦+男の子(2歳)
埼玉県



「見えないものだから気にしない」でホントに大丈夫ですか？

あなたは食べ物の10倍の空気を毎日取り込んでいます。

日々の生活の中で口に入れる食べ物や飲み物を気にする人が多い昨今ですが、実は、空気はそれらの10倍も体に摂取しています。家族とお子様の健康を考えると「食」だけでなく、目に見えない「空気」の安全も家創りには大切な要素です。

そして、室内の空気環境を良くするために注目したいのが「壁」の素材です。壁は家の総面積の約70%を占めるのでここに健康に配慮した素材を使うことで効果的に空気環境が改善されるのです。

今では健康機能を謳った多くの素材が販売されていますが、特に気をつけて頂きたい機能はその調湿性能です。高温多湿の日本では、夏場の湿気や冬場の結露によるカビやダニの発生が様々な健康被害の原因になっているからです。

建物の最大の敵はカビ。

空気の安全を脅かす最大の敵は、なんといってもカビです。カビ菌が繁殖すると腐敗菌なども増殖し、ダニやシロアリも繁殖する為、建物は食い荒らされ朽ちていきます。カビは湿度60%以上、PH9以下の環境で爆発的に繁殖し、有害な胞子を放出します。これが喘息やアレルギーを引き起こす大きな原因になっており、化学物質と同じくシックハウスの最大の犯人なのです。

しかし、漆喰をはじめとする自然素材の塗り壁はアルカリ性で強い殺菌作用がある為、カビの増殖を抑えることができるのです。また、塗り壁の表面にはミクロの孔が無数にあり(多孔質構造)壁自体が呼吸をして空気中の湿気をコントロールする働きがあるので、やはりカビの繁殖を防ぐことが出来ます。これらの機能は酒蔵や商家の土蔵、ワインの醸造所などで古くから塗り壁が使われてきたことから実証されています。

化学物質を吸着して空気を浄化。

塗り壁はシックハウス汚染を引き起こすホルムアルデヒドを代表とする人体に有害な化学物質(VOC=揮発性有機化合物)を吸着し、空気を浄化する機能も持っています。国でも2003年に建築基準法を改定し建材・塗料・接着剤から発生するホルムアルデヒド対策を行っていますが、最も発散量が少ないとされるF☆☆☆☆(フォースター)でも発散量はゼロではなく「F☆☆☆☆=安全安心」では決してありません。実際に、それらの建材のみを使用してもシックハウスになった、というケースもあります。

健康住宅を望む場合、やはり無垢材や天然素材の塗り壁を使用することが最大の対策になるわけです。

不快なニオイをスッキリ消臭。

目に見えない空気の質と同じくらい大切なのに対策がなされていないのが「ニオイ」です。

人は日々の生活の中で様々なニオイを出しています。これ自体を止めることは現実には不可能です。しかしトイレのアンモニア臭やタバコの臭い、部屋にこもりがちなペット臭が半永久的に軽減され、より心地よい空間に生まれ変わるとしたら・・・いったいどれほど快適に過ごせるでしょうか？

珪藻土などの塗り壁は生活臭を吸着します。最近では空気清浄機や消臭スプレーが爆発的に売れていますが塗り壁の家ではそれらも必要なくなります。

あなたはビニールに囲まれています。

ここまで綺麗な空気を作り出す塗り壁の優れた点をご紹介してきましたが、最後にこれから家創りをされる方にぜひ知っておいて欲しいことがあります。

それは「いま建てられている家の90%以上は窓以外はほぼ全てビニールに囲まれている」という現実です。

中でも最大の面積の「壁」には特に建主の指定(こだわり)が無ければ自動的にビニール(クロス)になってしまいます。勿論ビニールクロスには色・デザイン・柄の多様さ、価格の安さ、施工の容易さなど様々な利点があります。しかし、残念ながらビニールには変わりありません。一部の機能性クロスを除けば塗り壁にあるような空気を綺麗にする機能は皆無です。

家族の為にできること。

しかし、そうは言っても壁全体に塗り壁を使うとどうしても費用がかかります。実際に「本当は使いたかったけど、予算の都合で諦めた。」というお話も多く耳にします。でも簡単に諦めないで欲しいのです。「全部の部屋は無理だったけど寝室と子供部屋に使って本当に良かった。」「リビングの壁だけけど四季を通して空気がサラッとしていて快適。おまけにエアコンの使用が減った。」「湿気のこもる脱衣所と臭いが気になるトイレに使った。」など多くの方が目的に応じて様々な工夫をされています。

私たちは「壁」に囲まれて生活しています。家族が安心して快適に暮らすために、その素材を見直してはいかがでしょうか。

chapter 3 あなただけの家を創ろう！

あなたの“こだわり”は何ですか？



個性がなくなった日本の街並み。

今の日本の住宅街を歩いて気付くことは大多数の家の外壁はサイディングで覆われているということです。様々な色や柄があるものの、なぜか街並みが無機質で、画一的で味気ないものになっていると感じます。これも伝統的な塗り壁が戦後70年以上に渡って工業化された建材に取って代わられたことが要因ではないでしょうか。左官職人が心を込めて1件1件手間隙かけて仕上げるものと、工場でロボットが作ったものとの違いといって良いかもしれません。

人間一人ひとりに個性があるように、家にもそれぞれの個性があるべきだと私たちは考えています。実際に『塗り壁の家』を建てた方の多くは「真っ白い塗り壁の外観にしたい」「旅先で見た南欧風の外観にしたい」「自然な風合いのパターンで仕上げたい」などのこだわりを持っています。

自分だけの壁を 自分で塗る、という楽しさ。

せっかく塗り壁を希望しても「職人がいない」「手間賃が高くなる」などの理由で諦めてしまうケースも多いようです。しかし最近では「左官職人の指導をうけながら、お子さんと一緒に自分で塗ることでコストを下げる」といった提案をされる工務店もあるようです。

自分たちの手で仕上げた塗り壁に愛着が湧き、『塗り壁の家』がもっと身近に感じられることでしょう。塗り壁リフォームがもっと広まって欲しいと願っています。

家は人生で最も高価な買い物です。しかし、車や洋服と違い、ゼロから自分の思いを込めてこだわりを実現することができる買い物です。だからこそ、あなただけのオンリーワンの家を創ってほしい、と私たちは願っています。



あなたが“本当に”住みたいのはい体どんな家なのでしょう？



▲フレンチカントリー風の外観が可愛い全面塗り壁のシンプルなデザイン。玄関ドアがアクセントになっています。



▲和モダンスタイルの住宅。正面1階部分にはタイルを配して重厚感ある落ち着いた外観にまとめています。



▲漆喰の白壁のイメージにこだわった京都の住宅。蔵風のデザインは継ぎ目の無い塗り壁でしか再現できません。



▲直線を活かしたモダンな邸宅。コテの風合いを残した塗り壁の外観が光を優しく反射しています。

▼静かな森に囲まれた切妻屋根の平屋。薄っすらとクリームかかった色が風景とマッチしています。



▼まるでお洒落なカフェのような玄関。ガラスブロックや観葉植物との相性がよいのも塗り壁の特徴です。



▼軒を深く取った広々とした玄関が印象的です。内装に全て無垢材と塗り壁を採用した自然派住宅。



▼“白”にこだわったシンプルモダンな住宅。門扉などの外構までトータルにデザインされています。



▲赤系の塗り壁をメインに一部を2色混ぜて大理石調に仕上げています。同系色のブリックタイルがアクセントに効いています。



▲全体を塗った後、コーナー部は職人がコテを使って古びたタイルのデザインを作っています。これぞオンリーワンの外壁！



▲コンセプトは家族の息づかいが感じられる家。森の中にたたずむ別荘を想わせるシンプルな平屋です。



▲総二階建てのキューブ型住宅。一見無機質に見えますがサイディングでは表現できない風合いが街並みにマッチしています。